

さとう健司



いあいらび



平成28年6月県議会は、びわこ文化公園都市に新県立体育館を整備するため造成基本計画の策定を行う補正予算案等を可決して閉会しました。

今年度、文化・芸術・スポーツの振興、道路や河川等の社会資本整備を所管する「県民生活・土木交通常任委員会」の委員長に就任しました。

引き続きご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

◆平成28年6月県議会◆

大丈夫？ 新生美術館の整備

予定より大幅に遅れてようやく新生美術館の基本設計がまとまりました。しかし、既存館の改修にかかる費用が当初の見込みの2倍以上の13億円に膨らみ、新館については、基本計画の想定よりも4割近くも面積が削減されるとともに、他の美術館と比べて割高な工事費になることが明らかになりました。



Q 展示部門の面積が基本計画よりも大きく減少したことについて？

A (知事) 展示部門の面積は、基本計画で想定した面積よりも減少しているものの美的滋養の入口として、過去から現在までの多様な美の魅力を国内、海外に発信するという新生美術館の使命を実現できる基本設計に仕上がった。

Q 建築工事が基本計画より上がっている。特に、新館については面積が大幅に削減される一方で、単位面積当たりの工事費が高くなっているか？

A (知事) 新館の建築工費の平米当たりの単価が、基本計画時点の62万円から79万円に上がっているとの指摘だが、この工事費については現在の市場価格をもとに算出している。その上で、公開承認施設としての対応等に配慮して、増築する展示室と収蔵庫のすべてにガス消火設備等を整備すること、既存館については改修が必要な機器の数量が増加したこと等で単価が基本計画の想定より大きくなった。

現時点での整備費の総額は？

A (知事) 新生美術館の施設整備費用については、美術館整備工事47億円、公園整備工事5億円、機能整備費用等7.5億円を合わせて59.5億円となっている。また、関連費用として琵琶湖文化館収蔵品移転に伴う経費等で9.5億円。総額で約69億円を見込んでいる。

活動報告

公共交通の活性化について調査

高齢化の進展とともに、地域における生活の足の確保が大きな課題となっていることから、県民生活・土木交通常任委員会の行政調査では大津市内のバス事業者を訪れ、路線バス事業の厳しい現状や課題をお伺いするとともに、大津市の担当者から志賀地域で実施している予約制の乗り合いタクシー連行の取り組みについて説明を受けました。



琵琶湖博物館を視察

琵琶湖博物館の第1期リニューアルが完成し、7月14日にオープンしました。水族展示室にびわ湖と同じく古代湖であるバイカル湖の固有種「バイカルアザラシ」がデビューしたのに加えて、最新の研究成果に基づいて展示内容も見直され、大人から子どもまでさらに楽しく学べる場として、工夫がこらされています。

